

平成25年1月17日

No. 13-005

株式会社 いよぎん地域経済研究センター

収入は持ち直しの動きが一服、支出は引き締め傾向

～2012 年 12 月消費者アンケート結果より～

株式会社いよぎん地域経済研究センター(略称 IRC、社長 山崎 正人)は、このたび愛媛県内の消費者のマインド等について取りまとめましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、詳細は2013年2月1日発行の「調査月報 IRC・2013 年 2 月号」に掲載の予定です。

記

【調査要旨】

1. 景況感DIは、前回(2011 年調査)より、3.7 ポイント上昇し、▲48.2 と 4 年連続で前年を上回る結果となった。収入DIは、前回は 1.1 ポイント下回り、▲24.9 と 3 年ぶりに低下した。10 年以降続いていた持ち直しの動きは一服したようだ。消費支出DIも、7.4 ポイント低下し、28.7 となった。
2. 暮らし向きDIは、前回は 1.7 ポイント上回り、▲25.0 となった。今後の見通しに関しては、家計が厳しくなると見込んでいることが影響してか、大幅に低下し、▲40.9 となった。
3. 増税前に買っておきたいものがあるか尋ねたところ、約 4 割の人が「ある」と回答した。具体的に買いたいものとしては、最も多かったのは「自動車」(49.2%)、次いで「パソコン・タブレット端末」(22.0%)であった。上位は、耐久消費財を中心に高額な商品となった。
4. 増税後に今まで以上に節約するか尋ねたところ、62.1%が「今まで以上に節約する」と回答した。具体的に節約するものとしては、「外食」(48.8%)との回答が最も多く、次いで「食料品・日用品」(43.2%)、「光熱・水道」(38.3%)となった。日々の食事や衣料品など、日常の衣食住に関わるものを節約しようという人が多かった。
5. 今回の調査では、景況感、暮らし向きともに改善したにもかかわらず、収入では持ち直しの動きが一服し、支出は引き締め傾向となった。今後に関しても、先行きへの不安感からか、依然厳しい見方が強い。また、県内経済をみても、海外経済の減速などの影響で生産活動にやや弱い動きがみられ、企業業績が悪化すれば、さらに消費が冷え込む恐れがある。

以 上

【アンケート概要】

時 期：2012 年 11 月下旬～12 月上旬
 対 象：県内在住の個人 1,500 名
 方 法：伊予銀行支店でアンケート用紙を配布、
 郵送で回収。無記名方式。
 回答数：710（有効回答率 47.3%）

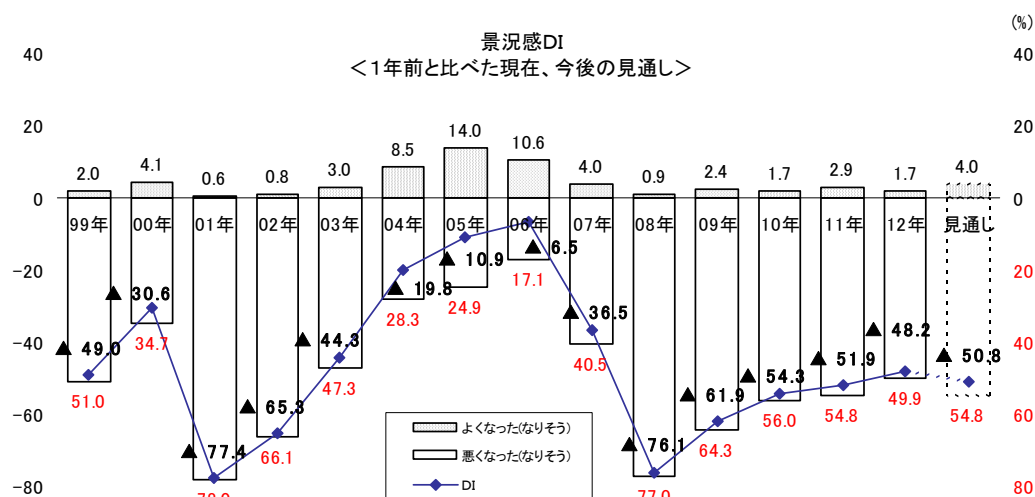
【回答者属性】

30 歳未満	16.0%
30 歳代	16.3%
40 歳代	25.6%
50 歳代	22.2%
60 歳以上	19.9%

1. 景気・収入・支出・暮らし向きの動向

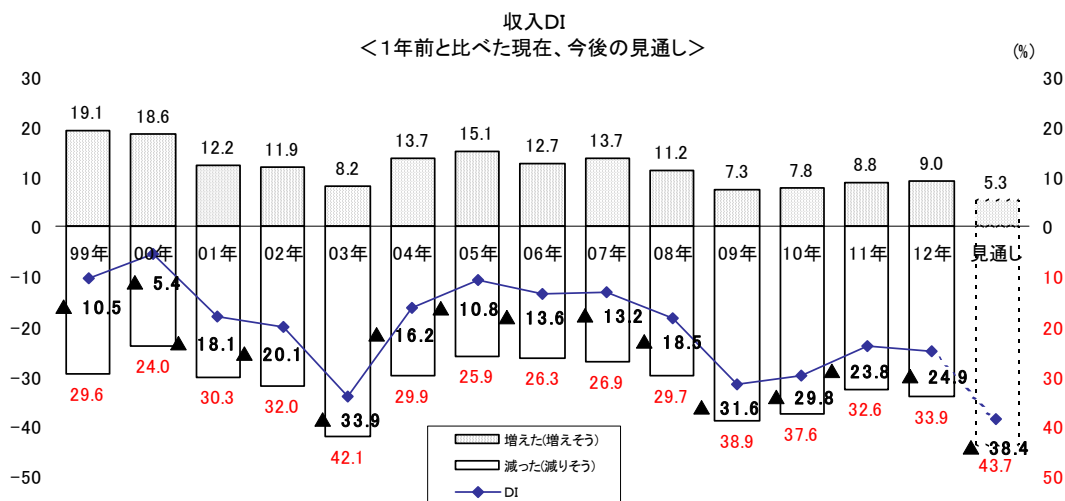
【景況感DI】改善傾向続く

- 景況感DI(1年前に比べ景気が「よくなった」という割合から「悪くなった」という割合を引いた数値)は、前回(11年調査)より3.7ポイント上昇し、▲48.2と4年連続で前年を上回る結果となった。依然、低水準ではあるものの、改善傾向が続いている。
- 今後の見通しは、2.6ポイント低下し、▲50.8となった。



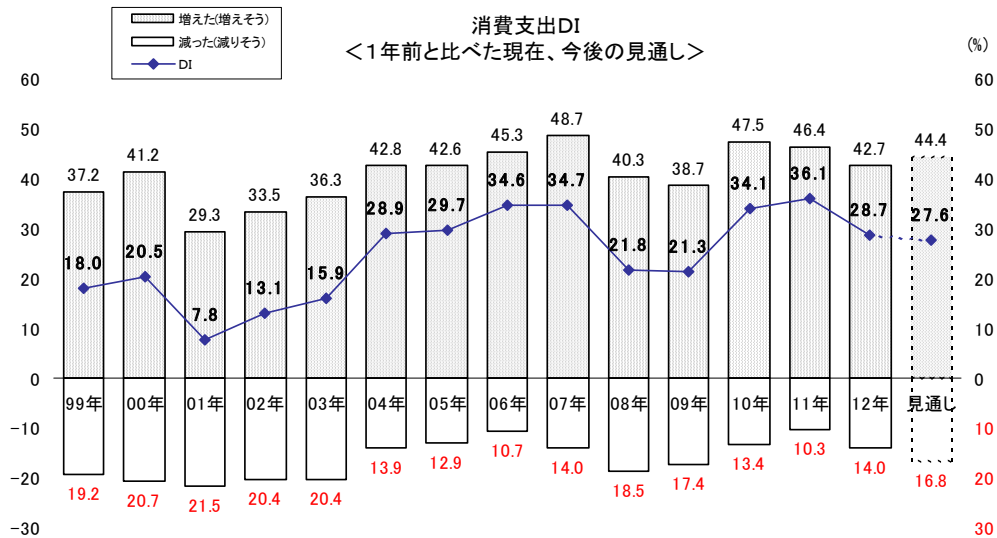
【収入DI】持ち直しの動き一服

- 収入DIは、前回は 1.1 ポイント下回り、▲24.9 と 3 年ぶりに低下した。10 年以降続いていた持ち直しの動きは一服したようだ。
- 今後の見通しは、収入が減りそうとする人が増加し、DIは 13.5 ポイントと大幅に低下、▲38.4 となった。



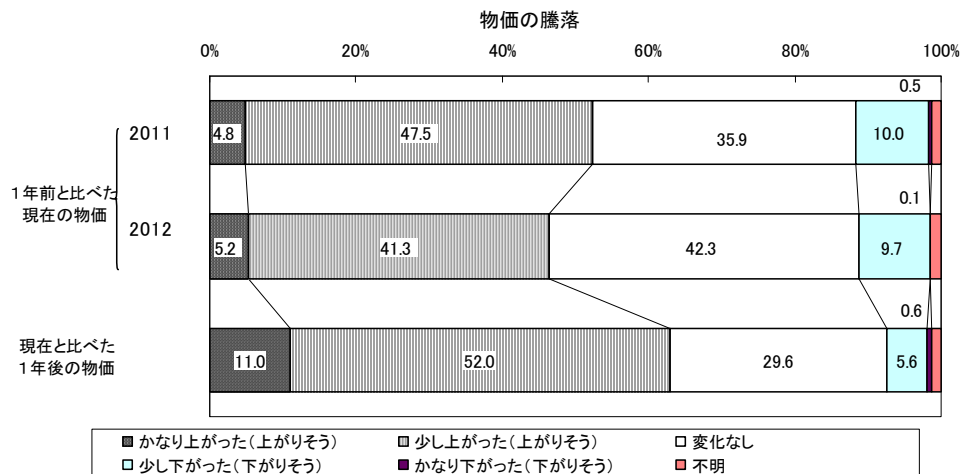
〔消費支出DI〕消費支出DI低下に転じる

- ・ 10年以降上昇傾向にあった消費支出DIは、今回7.4ポイント低下し、28.7となった。
- ・ 今後の見通しはさらに1.1ポイント低下し、27.6となっている。今後の収入が厳しくなると見込んでいることから、支出に対しても引き締めようと考えているようだ。



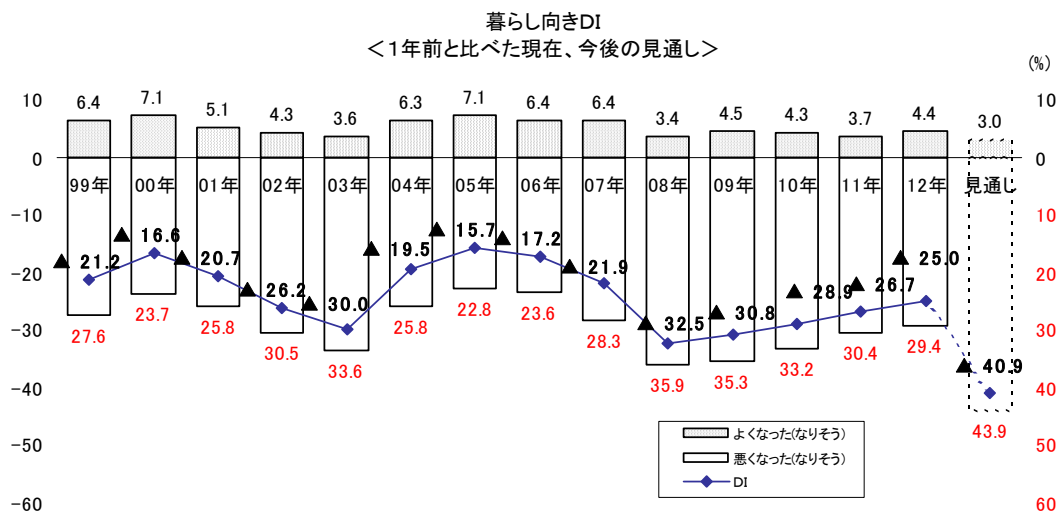
〔物価〕消費者の6割が物価上昇するとみる

- ・ 1年前と比べて物価が「(かなり、または少し)上がった」と感じている人は、46.5%となり、前回より5.8ポイント低下した。
- ・ 1年後の物価については、「(かなり、または少し)上がりそう」との回答が63.0%となっており、多くの消費者が今後、物価が上昇するとみている。



〔暮らし向きDI〕今後の見通し厳しく

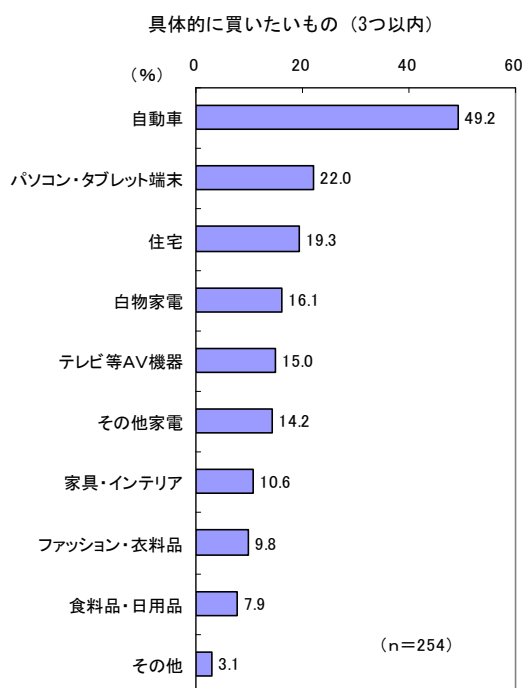
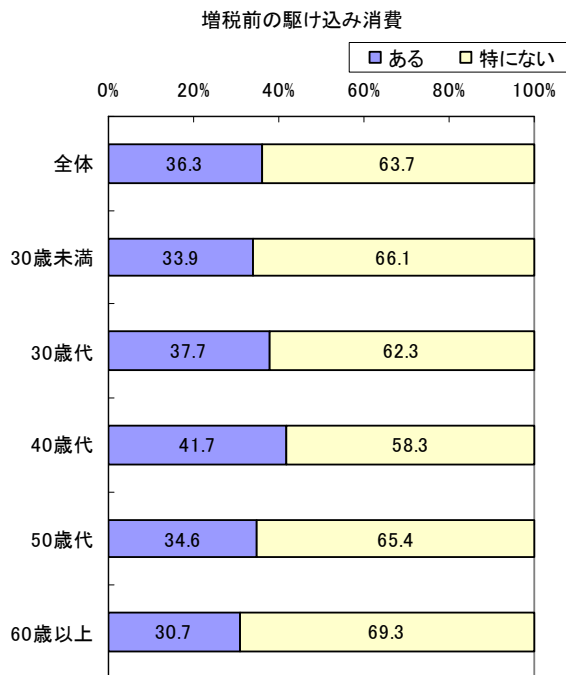
- ・ 暮らし向きDIは、前回は1.7ポイント上回り、▲25.0となった。09年以降、景況感DIと連動して緩やかな上昇が続いている。
- ・ 今後の見通しに関しては、家計が厳しくなると見込んでいることが影響してか、大幅に低下し、▲40.9となった。



2. 消費税増税

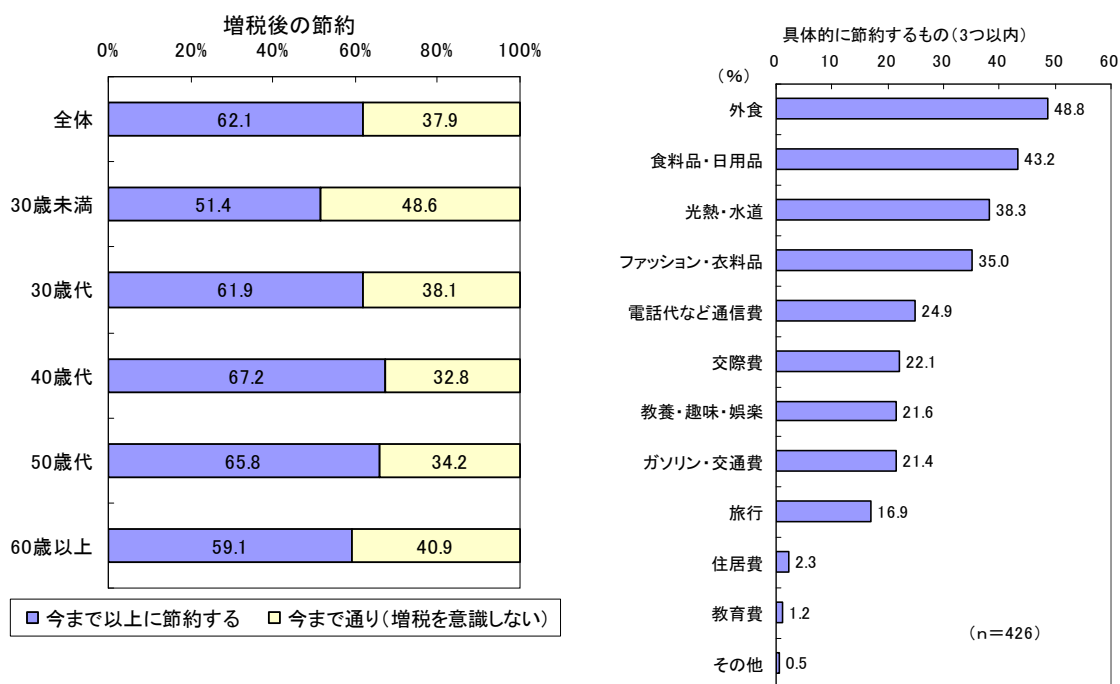
〔増税前〕駆け込み消費がある人は約4割

- 増税前に買っておきたいものがあるか尋ねたところ、約4割の人が「ある」と回答した。年代別にみると、大きな差はないものの、60歳以上は30.7%と全体に比べやや低く、増税前の駆け込み消費を考えている人は少ないようだ。
- 具体的に何が買いたいのか尋ねたところ、最も多かったのは「自動車」(49.2%)、次いで「パソコン・タブレット端末」(22.0%)、「住宅」(19.3%)であった。上位は、車や家電といった耐久消費財を中心に高額な商品となった。



〔増税後〕さらに節約意識高まる

- ・ 増税後に今まで以上に節約するか尋ねたところ、62.1%が「今まで以上に節約する」と回答した。年代別にみると、40歳代、50歳代の中高年層で、より節約意識が高まっているようだ。
- ・ 具体的に何を節約するか尋ねたところ、「外食」(48.8%)との回答が最も多く、次いで「食料品・日用品」(43.2%)、「光熱・水道」(38.3%)となった。日々の食事や衣料品など、日常の衣食住に関わるものを節約しようという人が多かった。



まとめ

今回の調査では、景況感、暮らし向きともに改善したにもかかわらず、収入では持ち直しの動きが一服し、支出は引き締め傾向となった。今後に関しても、先行きへの不安感からか、依然厳しい見方が強い。また、県内経済をみても、海外経済の減速などの影響で生産活動にやや弱い動きがみられ、企業業績が悪化すれば、さらに消費が冷え込む恐れがある。

2014年度の消費税増税を前に、県内でも駆け込み需要による個人消費の回復が期待される。しかし、増税後の反動減や支出の引き締めも予想され、さらなる消費の落ち込みにつながるのではないかとの見方もある。

(國遠 知可)